



月刊 千葉動力車

千葉動力車第26回定期大会 盛大に開催!

動労千葉第26回定期大会は、九月二十七日十三時から、白浜町・南国ホテルにて開催され、正念場を迎えた国鉄闘争を始めとした闘いの総括と方針が提起され、活発な議論が展開された。多くの来賓のあいさつを始め、長年動労千葉の運動に貢献された組合員の表彰や争議団組合員の決意も明らかにされた。

大会は議長団に地元館山支部坂本代議員、幕張支部高橋代議員が選出され、議事が進められた。冒頭委員長あいさつに立つた中野委員長は、別掲のようにあいさつを行なった。来賓の、北原鉦治三里塚反対同盟事務局長、高橋昭一郎落解放同盟全国連共闘部長、佐藤昭夫早大教授、葉山岳夫顧問弁護団長、足立満智子成田市議、長谷川英憲都政を革新する会代表、半沢勝男千葉県本部副委員長、動労水戸、佐藤正子家族会会長、白石喜久雄OB会副会長、中江昌夫船橋市議、水野正美勝浦市議からそれぞれあいさつを受けた。

続いて執行部より一般経過報告、労働協約・協定締結報告、事業部報告、法対報告、決算報告が行なわれた。会計監査報告と会館運営委員会答申ののち、質疑討論が行なわれ三名の代議員から次の発言が行なわれた。

● 貨物動乗改悪が横行され、日貨労、鉄産労が妥結したが経過と今後どう闘うか。
先の台風で貨物列車の運用がため、途中駅での起電停止が発生するなどがあつ

た、今後の対応は。(新小岩)
● 五・二八判決は許せない、その後の国労の「補強案」等の対応はどうなっているのか。東労組のなかでも「大船問題」など組織問題が起きている。組織拡大を。(千葉転)

● 営業は退職者が相次ぐなかで配転が多く、退職者が出る。と仕事回らなくなっている。組織的取り組みを。
予科生の運転士登用が依然としてなされていない問題の

中野委員長あいさつ (要旨)

本大会でかちとるべき課題の一つは、いかなる情勢の下で開催されているかということだ。

五・二八反動判決にみられる国鉄闘争を解体するという国家権力の意志は、全国の裁判、労働委員会に少なからぬ影響を与えている。すべての労働者・労働組合に対する攻撃だという認識をもつことが重要だ。

現在は、世界恐慌前夜の状況と酷似している。一九三〇年代一昭和恐慌から第二次大戦へと向かっていった過程と酷似している。大失業と戦争の時代の突入、戦争か革命か、という時代だ。こうしたなかで、連合は「対決型労働運動は、労働者側に責任があった」と自己批判し、

全労連はワークシェアリングを、日本共産党は、「安楽廃業」の凍結を言い出している。全体が

取り組みを。(総武)
これに対して執行部より答弁が行なわれ、翌日の討論でより深めていくことが確認された。続いて組合員表彰が行なわれ、関豊さん(新小岩支部)、鶴岡直芳さん(鴨川支部)、川名泰さん(館山支部)、斎藤勇さん(京葉支部)、関弘明さん(幕張支部)の五名が表彰を受けた。議事の最後に、当日参加された争議団より一人ひとりから決意表明をうけて、第一日目の議事は終了した。

翼賛化しているということだ。労基法・労働組合法は六千万労働者の二四時間のあり方を決め

る。労基法がきちんと存在してはじめて基本的な人権がある。だが、国会ではほとんど討論されないまま改悪案が参院で強行された。北朝鮮の人口衛星ミサイル事件も衆参両院一致で弾効決議をあげている。地方自治体でも同じことが進行している。こうした翼賛体制づくりの最大の要因は労働運動がからめとられていないからだ。ストで闘う組合が皆無という状況と決して無縁ではない。

一方、参院選挙や百万人署名運動では青年学生が大きく動きだしている。九八年秋から来年、ここが勝負のときだ。

昨年の大会で掲げた一〇四七名の清算事業団闘争と強制配転者の原職復帰の闘いについて、

本大会に、各界から多数の祝電・メッセージがよせられました。ありがとうございます。後日、本紙にて紹介させていただきます。

国労大会での「国鉄改革法の承認」等の補強案提案という事態を他山の石とする必要がある。日本の戦後労働運動は、情勢が厳しくなると路線を右に寄せる傾向がある。しかし、敵の構えがはつきりした以上、一から闘いを開始する以外にない。清算事業団闘争と結合してJR総連を打倒しよう。

また、予科生運転士登用差別についてはストを含む闘いを展開したい。

さらに春闘方式が解体しているなかで、われわれの立場からより発展させる階級的な労働運動をつくらうと訴えてきた。十一・八全国労働者総決起集会は、三組合のよびかけとなった。闘う労働組合のネットワークをつくらう。今大会は昨年積み残した闘いをさらに強化し闘いぬこう。来年は結成二〇周年を迎える。今日の情勢、二〇周年の節目にふさわしい新しい世代の動労千葉をつくらう。